



2. 経費支出概要書（経費内訳）  
 (1) 経営相談支援事業

泉佐野商工会議所  
 (単位：円)

区 分	変更前			変更後			差額	
	事業所数/回数	算定基準	補助金額	事業所数/回数	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
事業所カルテ・サービス提案	200	5,000,000		200	5,000,000		0	
支援機関等へのつなぎ	4	40,000		4	40,000		0	
金融支援（紹介型）	5	150,000		5	150,000		0	
金融支援（経営指導型）	98	3,920,000		98	3,920,000		0	
マル経融資等の返済条件緩和支援	0	0		0	0		0	
資金繰り計画作成支援	55	1,100,000		55	1,100,000		0	
記帳支援	51	1,275,000		51	1,275,000		0	
労務支援	51	1,020,000		51	1,020,000		0	
人材育成計画作成支援	0	0		0	0		0	
マーケティング力向上支援	5	100,000		5	100,000		0	
販路開拓支援	60	1,200,000		60	1,200,000		0	
事業計画作成支援	33	1,650,000		33	1,650,000		0	
創業支援	10	200,000		10	200,000		0	
事業継続計画(BCP)作成支援	10	200,000		10	200,000		0	
コスト削減計画作成支援	10	200,000		10	200,000		0	
財務分析支援	51	510,000		51	510,000		0	
5S支援	0	0		0	0		0	
IT化支援	5	100,000		5	100,000		0	
債権保全計画作成支援	0	0		0	0		0	
事業承継支援	10	200,000		10	200,000		0	
災害時対応支援	0	0		0	0		0	
フォローアップ支援	41	205,000		42	210,000		5,000	
結果報告	175	1,750,000		175	1,750,000		0	
小 計	—	18,820,000	18,820,000	—	18,825,000	18,822,552	5,000	2,552

(2) 専門相談支援事業

事業名	変更前			変更後			差額	
	支援日数	算定基準	補助金額	支援日数	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
法律	10	240,000		10	240,000		0	
税務	12	288,000		12	288,000		0	
労務	4	96,000		4	96,000		0	
知財	4	96,000		4	96,000		0	
	0	0		0	0		0	
小 計	—	720,000	720,000	—	720,000	720,000	0	0

※支援日数×24,000円。ただし、記帳支援のために税理士を活用する場合、事業所数×26,000円

(3) 地域活性化事業

	変更前		変更後		差額	
	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
小 計	別紙事業調書のとおり	7,216,525	別紙事業調書【変更後】のとおり	7,213,973		▲ 2,552

(4) 商工会等支援事業

	変更前		変更後		差額	
	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
小 計	別紙事業調書のとおり	0	別紙事業調書【変更後】のとおり	0		0

(5) 合計

	変更前		変更後		差額	
		補助金額		補助金額		補助金額
申請合計		26,756,525		26,756,525		0

事業名		商工フェアIN泉佐野		事業番号		I	新規/継続	継続
想定する実施期間		H29	年度～	年度まで	5	年目	←複数年段階的实施事業は左欄に○を付けること。また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業概要	「ものづくり体験教室」等を通じて、「ものづくり」に対する関心を高め、若者にもものづくり体験の機会を提供し、次世代の事業者育成のきっかけとなり、地域の即戦力となる技術・技能人材を確保する土壌をつくる。						
	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	泉佐野地域では、タオルや農産物等、優れた特産品を生み出しているが、地域の産品をPRできる場が少なく、知名度が不足している感がある。商業分野に限らず工業分野においても認知度向上に苦慮する製造業者を支援し、販路拡大に繋げる必要がある。そこで本事業では、PRの場として物産展を開催し、製品の試用や体験により、よりインパクトのあるPRを可能とし、出展を通じて、出展スキルを身に付けることから、他の展示会への参加意欲を高め、販路拡大の機会を広げることが出来る。また同時開催イベントとして「ものづくり体験教室」を開催。「ものづくり」に対する関心を高め、次世代の事業者育成のきっかけとなる場を提供する。また地元グルメの披露を行い、相互にコミュニケーションが取れる環境をつくる。「泉佐野」のブランド力を広く内外にアピールし、販路拡大に繋げていくと共に、地域に「商工のお祭り」を根づかせることで、参加される方々の様々な出会いにより、異業種の垣根を越えた関係をつくり、地域をさらに盛り上げたいという気運を高め、地域活性化に繋げる。						
	支援する対象 (業種・事業所数等)	泉佐野市・田尻町の商工業者35社の参加を想定						
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	小規模事業者の発信力の弱さにより地域において認知度が低く、ビジネスチャンスを逃している現状があり、今までになかった町おこしの事業が切望されていた。来場者は第一回が1500名・第二回が5000名・第三回が7000名の来場を頂き、年々市民からの期待が高まっている。事業所にとっての強みと弱みを洗い出し、強みを活かし弱みを克服するヒントを得ることが出来る。						
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値	<p>&lt;R2年度はコロナ感染症予防のため中止&gt;</p> <p>3密を避けることが困難なリアルな展示・販売をメインとする手法での事業が困難となったことから、人を集めない手法（「withコロナ時代への対応～泉佐野・田尻の一品逸品」PRという手法への変更。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称 「withコロナ時代への対応～泉佐野・田尻の一品逸品」PR</li> <li>・実施期間 令和2年10月～12月</li> <li>・連携 泉佐野市・田尻町</li> <li>・参加数 47社</li> <li>・内容 現状のコロナ禍において、新しい生活様式へ変わろうとしており、それに対応する事業経営においても変化を余儀なくされている。そこでwithコロナ時代の新しい生活様式や消費動向の変化を捉えた「泉佐野・田尻ならではの」「あなたのお店ならではのこだわり」「オリジナリティ」「アイデア」「サービス」を紹介。紹介ガイドを作成し参加事業所のさらなる業容拡大・向上を目指した。</li> <li>・実行委員会 泉佐野市・田尻町・商工会議所で構成（11月9日（月）開催）</li> <li>・配布先 役所関係・公共機関・掲載事業所・一般市民等 他HP等でPR</li> </ul> <p>&lt;令和1年度の実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和1年9月21日（土）・22日（日）AM11:00～PM4:00</li> <li>・会場 レイクアルスタープラザ・カワサキ生涯学習センター前広場他（泉の森広場・生涯学習センター・歴史館いずみさの）</li> <li>・実施内容 泉佐野・田尻地域の事業者が、地域住民に対して「自社商品や製品の紹介」や「生の声を聞く」場とあして活用。</li> <li>・来場者数・・・（産業展示コーナー&amp;販売コーナー）7000人</li> <li>①「商品・地場産業展示コーナー」・・・23社</li> <li>②「商品の販売・飲食コーナー」・・・15社</li> <li>③「知己の団体等のコーナー」・・・8団体（泉佐野警察署・泉佐野消防署・商工会議所青年部・女性会等）</li> <li>④「勾玉教室」・・・参加者116名</li> <li>⑤「泉州タオル染色・体験教室」・・・参加者72名</li> <li>⑥「ステージショー」・・・「あわ踊り」「バトントワリング」「キャラクターショー」「歌謡ショー」「泉佐野警察署の防犯教室」他</li> </ul>						
	反省点	参加店舗への来場者を平準化するためにも、回遊性の改善を図るために、ブース配置の改善を図る必要がある。						
具体的な実施内容・手法 (該当型に○) 一つ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	○	人材育成型	【物産展】（1日間・35社予定） コロナ禍での感染予防のため、例年、来場者で込み合う産業展示ブース（屋内会場）の密を避けるため、屋外の会場へスタンプラリーの拠点を4ヶ所設置し、人の流れが分散されるように配慮する。					
		人材交流型	①開催日：2021年9月19日（日）AM10:00～PM4:00 ②開催場所：레이크アルスタープラザ・カワサキ生涯学習センター前広場他（泉の森広場・生涯学習センター・歴史館いずみさの）					
	○	販路開拓型	③内容：泉佐野市内の商工業者一同に集めた物産展を実施し、自社商品を展示PR・対面販売することで認知度を上げ、販路開拓を支援する。					
		ハンズオン型	④集客イベント （1）会場内での「スタンプラリー」を実施し、スタンプの拠点を4ヶ所設け、スタンプが貯まれば、会場内数か所に設置の商品交換コーナーで。地域特産品等との交換を行う。 （2）未定：泉佐野市の地域にまつわる歴史や特産品に関わる内容で集客イベントを実施する。					
		独自提案型	⑤支援企業数 35社 ⑥来場者数 3,500人（1日間） 【地場産業に触れる教室】 ・泉州タオルの染色体験を行い、自分だけのマイタオルを作る。 【ものづくり教室】 大阪府技能士連合会との連携により開催					

事業手法 (該当する場合は ○印と下欄に その根拠)	○ (a)府施策連携		(b)広域連携		○ (c)市町村連携		(d)相談事業相乗効果	
	労-5 産業祭・物産展・ものづくり教室						人材育成・労務	
(a)府施策連携 労働5番 大阪府施策「産業祭・物産展・ものづくり教室」により、大阪府技能士連合会との連携により「ものづくり教室」等の開催。 (c)市町村連携 市役所・町役場との連携を通じて、案内周知を図る。								
主な事業の目標	総支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒	ホームページや市民版（会議所ニュース 3万部）、新聞折込（泉佐野市と田尻町）を活用し、それぞれ広くPRする。また役所との連携により情報提供を徹底する。市・町（窓口・広報）より広く同事業をPR。また幅広い年齢層に参加してもらえるよう、民間のイベント情報サイトなどでも事前周知を行う。					
	支援対象企業の変化（代表的な指標）	指標	自社製品のPRに繋がった企業の割合				数値目標	80%
	その他目標値	目標値の内容⇒	1575 名 来場者数3,500名。その対象を45人×35社=1,575人					
算定基準 (行が足りない場合は、⇒ の行に挿入)		—		支援企業数		係数		標準事業費
	⇒	50,500	円 ×	35	社 ×	1.00	=	1,767,500
		50,500	円 ×	1,575	社 ×	0.01	=	795,375
			円 ×		社 ×		=	
			円 ×		社 ×		=	
			円 ×		社 ×		=	
		合計		1,610	社	(小計)		2,562,875
		※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算（小計の5%）						円
						計		2,562,875
独自提案単価及び独自補正係数の根拠（基準どおりの場合不要）								
算出額	①市町村等補助	円		交付市町村等				
	②受益者負担	570,000 円		負担金の積算		①出店料（多目的室）10,000×24社 ②出展料（泉の広場）30,000×11社		
	○ (a)府施策連携	(b)広域連携		○ (c)市町村連携		(d)相談事業相乗効果		
	標準事業費		補助率		((①市町村等+②受益者負担)			
	1,767,500	円 ×	0.50	=	883,750	円	( 570,000 円)	
795,375	円 ×	1.00	=	795,375	円	( 円)		
				1,679,125	円	( 円)		
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体 またはヒアリングで説明する 代表団体に○)	代	商工会・会議所名		配分額		役割（配分の考え方）		
		泉佐野商工会議所		1,679,125 円				
				円				
				円				
				円				

【備考】

※別添で補足する内容があれば添付してください。

事業名		商工フェアIN泉佐野		事業番号		I		新規/継続		継続	
想定する実施期間		H29 年度～ 年度まで		5 年目		←複数年段階的実施事業は左欄に○を付けること。また、別紙にて計画を提出すること					
事業の概要	事業概要	「ものづくり体験教室」等を通じて、「ものづくり」に対する関心を高め、若者にもものづくり体験の機会を提供し、次世代の事業者育成のきっかけとなり、地域の即戦力となる技術・技能人材を確保する土壌をつくる。									
	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	泉佐野地域では、タオルや農産物等、優れた特産品を生み出しているが、地域の産品をPRできる場が少なく、知名度が不足している感がある。商業分野に限らず工業分野においても認知度向上に苦慮する製造業者を支援し、販路拡大に繋げる必要がある。そこで本事業では、PRの場として物産展を開催し、製品の試用や体験により、よりインパクトのあるPRを可能とし、出展を通じて、出展スキルを身に付けることから、他の展示会への参加意欲を高め、販路拡大の機会を広めることができる。また同時開催イベントとして「ものづくり体験教室」を開催。「ものづくり」に対する関心を高め、次世代の事業者育成のきっかけとなる場を提供する。また地元グルメの披露を行い、相互にコミュニケーションが取れる環境をつくる。「泉佐野」のブランド力を広く内外にアピールし、販路拡大に繋げていくと共に、地域に「商工のお祭り」を根づかせることで、参加される方々の様々な出会いにより、異業種の垣根を越えた関係をつくり、地域をさらに盛り上げたいという気運を高め、地域活性化に繋げる。									
	支援する対象 (業種・事業所数等)	泉佐野市・田尻町の商工業者35社の参加を想定									
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	小規模事業者の発信力の弱さにより地域において認知度が低く、ビジネスチャンスを逃している現状があり、今までになかった町おこしの事業が切望されていた。来場者は第一回が1500名・第二回が5000名・第三回が7000名の来場を頂き、年々市民からの期待が高まっている。事業所にとっての強みと弱みを洗い出し、強みを活かし弱みを克服するヒントを得ることができる。									
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値	<p>&lt;R2年度はコロナ感染症予防のため中止&gt;</p> <p>3密を避けることが困難なリアルな展示・販売をメインとする手法での事業が困難となったことから、人を集めない手法（「withコロナ時代への対応～泉佐野・田尻の一品逸品」PRという手法への変更。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称 「withコロナ時代への対応～泉佐野・田尻の一品逸品」PR</li> <li>・実施期間 令和2年10月～12月</li> <li>・連携 泉佐野市・田尻町</li> <li>・参加数 47社</li> <li>・内容 現状のコロナ禍において、新しい生活様式へ変わろうとしており、それに対応する事業経営においても変化を余儀なくされている。そこでwithコロナ時代の新しい生活様式や消費動向の変化を捉えた「泉佐野・田尻ならではの」「あなたのお店ならではのこだわり」「オリジナリティ」「アイデア」「サービス」を紹介。紹介ガイドを作成し参加事業所のさらなる業容拡大・向上を目指した。</li> <li>・実行委員会 泉佐野市・田尻町・商工会議所で構成（11月9日（月）開催）</li> <li>・配布先 役所関係・公共機関・掲載事業所・一般市民等 他HP等でPR</li> </ul> <p>&lt;令和1年度の実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和1年9月21日（土）・22日（日）AM11:00～PM4:00</li> <li>・会場 レイクアルスタープラザ・カワサキ生涯学習センター前広場他（泉の森広場・生涯学習センター・歴史館いずみさの）</li> <li>・実施内容 泉佐野・田尻地域の事業者が、地域住民に対して「自社商品や製品の紹介」や「生の声を聞く」場とあして活用。</li> <li>・来場者数・・・（産業展示コーナー&amp;販売コーナー）7000人</li> <li>①「商品・地場産業展示コーナー」・・・23社</li> <li>②「商品の販売・飲食コーナー」・・・15社</li> <li>③「知己の団体等のコーナー」・・・8団体（泉佐野警察署・泉佐野消防署・商工会議所青年部・女性会等）</li> <li>④「勾玉教室」・・・参加者116名</li> <li>⑤「泉州タオル染色・体験教室」・・・参加者72名</li> <li>⑥「ステージショー」・・・「あわ踊り」「バトントワリング」「キャラクターショー」「歌謡ショー」「泉佐野警察署の防犯教室」他</li> </ul>									
	反省点	参加店舗への来場者を平準化するためにも、回遊性の改善を図るために、ブース配置の改善を図る必要がある。									
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	○	人材育成型	【物産展】（1日間・35社予定） コロナ禍での感染予防のため、例年、来場者で込み合う産業展示ブース（屋内会場）の密を避けるため、屋外の会場へスタンプラリーの拠点を4ヶ所設置し、人の流れが分散されるように配慮する。 ①開催日：2021年9月19日（日）AM10:00～PM4:00 ②開催場所：레이크アルスタープラザ・カワサキ生涯学習センター前広場他（泉の森広場・生涯学習センター・歴史館いずみさの） ③内容：泉佐野市内の商工業者一同に集めた物産展を実施し、自社商品を展示PR・対面販売することで認知度を上げ、販路開拓を支援する。 ④集客イベント （1）会場内での「スタンプラリー」を実施し、スタンプの拠点を4ヶ所設け、スタンプが貯まれば、会場内数か所に設置の商品交換コーナーで。地域特産品等との交換を行う。 （2）未定：泉佐野市の地域にまつわる歴史や特産品に関わる内容で集客イベントを実施する。								
		人材交流型	⑤支援企業数 35社 ⑥来場者数 3,500人（1日間）								
	○	販路開拓型	【地場産業に触れる教室】 ・泉州タオルの染色体験を行い、自分だけのマイタオルを作る。 【ものづくり教室】 大阪府技能士連合会との連携により開催								
		ハンズオン型									
		独自提案型									

事業手法 (該当する場合は ○印と下欄に その根拠)	○ (a)府施策連携	(b)広域連携	○ (c)市町村連携	(d)相談事業相乗効果	
	労-5	産業祭・物産展・ものづくり教室		人材育成・労務	
(a)府施策連携 労働5番 大阪府施策「産業祭・物産展・ものづくり教室」により、大阪府技能士連合会との連携により「ものづくり教室」等の開催。 (c)市町村連携 市役所・町役場との連携を通じて、案内周知を図る。					
主な事業の目標	総支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ 35 社	ホームページや市民版（会議所ニュース 3万部）、新聞折込（泉佐野市と田尻町）を活用し、それぞれ広くPRする。また役所との連携により情報提供を徹底する。市・町（窓口・広報）より広く同事業をPR。また幅広い年齢層に参加してもらえるよう、民間のイベント情報サイトなどでも事前周知を行う。32社の参加者が集まり、1月23日（日）の開催予定であったが、中止となり、実施できなかった。		
	支援対象企業の変化 (代表的な指標)	商業・サービス業では、一般消費者の生の声をきくことができ、今後の品揃えや商品開発等に繋げることができ、建設・工業関係では認知度のアップにより長期的観点からの販路拡大や経営力向上に繋がる。また「ものづくり」への関心を高め、次世代の人材の育成効果を期待できる。			
	その他目標値	指標	自社製品のPRに繋がった企業の割合	数値目標	80%
算定基準 (行が足りない場合は、⇒ の行に挿入)	目標値の内容⇒	来場者数3,500名。その対象を45人×35社=1,575人			
	1575 名				
		—	支援企業数	係数	標準事業費
	⇒	50,500 円 ×	35 社 ×	1.00 =	1,767,500 円
		50,500 円 ×	1,575 社 ×	0.01 =	795,375 円
		合計	1,610 社	(小計) 2,562,875 円	
		※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算（小計の5%）			計 2,562,875 円
独自提案単価及び 独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)	支払い済みの経費 $929,173円 \times 1.0 = 929,173円$				
算出額	①市町村等補助	円	交付市町村等		
	②受益者負担	570,000 円	負担金の積算	①出店料（多目的室）10,000×24社 ②出展料（泉の広場）30,000×11社	
	○ (a)府施策連携	(b)広域連携	○ (c)市町村連携	(d)相談事業相乗効果	
	標準事業費	補助率	((①市町村等+②受益者負担)		
	1,767,500 円 ×	0.50 =	883,750 円	( 570,000 円)	
795,375 円 ×	1.00 =	795,375 円	( 円)		
		1,679,125 円	( 円)		
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体 またはリンクで説明する 代表団体に○)	代	商工会・会議所名	配分額	役割（配分の考え方）	
		泉佐野商工会議所	1,679,125 円		
			円		
			円		
			円		

【備考】

新型コロナウイルス感染症の急拡大により、地域の皆様の「安全・安心」を確保することが困難となったため、急遽、中止することとなった。

※別添で補足する内容があれば添付してください。

事業名		IT・IoT導入（動画制作・活用）における非接触型の販路拡大事業		事業番号	23	新規/継続	新規
想定する実施期間		R3 年度～	R3 年度まで	1	年目	←複数段階的实施事業は左欄に○を付けること。また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業概要	新しい日常に対応した販売促進手法であるスマホでできる動画制作について、 <b>自社のマーケティングやPR等に活かし、売上アップに繋げるためのセミナーを実施する。</b>					
	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	働き方改革や <b>新型コロナウイルス感染症</b> をきっかけにテレワーク（リモートワーク）、自宅消費など、インターネット利用がますます増え、購買動向は大きく変化している。そんな中、IT・IoT導入（上手くスマホを活用）し、YoutubeやSNSなど動画を発信するのもマーケティングに効果的であるという点に注目し、自社で簡単にできる動画作成の手法から、動画を見てもらうための方法やコツ、目標数字の立て方から目標達成までのプロセスを身に <b>付ける</b> ことで、 <b>新型コロナウイルス感染症</b> による影響からの再生を図る。					
	支援する対象 (業種・事業所数等)	泉佐野市・田尻町の商工業者22社の参加を想定					
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	新型コロナウイルス感染症を <b>きっかけ</b> にテレワーク（リモートワーク）、自宅消費など、インターネットを介した消費行動が増えている中、非接触での販促活動に取り組む方法を模索している事業所が多い。					
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値						
	反省点						
具体的な実施内容・手法 (該当型に○印・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	○ 人材育成型	動画マーケティングのメリットは誰でも簡単に制作・発信ができ、言葉より圧倒的にお客様に伝わりやすいことや少ない費用で高い広告効果が見込めるなど、課題の多い中小企業においても非常に有用な手法である。効果的なニーズの訴求や自社で簡単にできる動画作成の手法をセミナー形式で講師に解説してもらう。					
	人材交流型	開催時期 R4年3月中旬					
	販路開拓型	内 容 ①「新しい日常」に対応した販売促進としての動画活用 ②動画マーケティングの成功事例 ③動画での自社PRのパターンや効果 ④動画制作の基本 ⑤発信方法と目標設定、達成プロセス等					
	ハズオン型	講 師 専門家より 大阪府の施策の紹介 ・大阪産業局MOBIO事業部 技術支援チームより					
独自提案型	○ (a)府施策連携	○ (b)広域連携	○ (c)市町村連携	○ (d)相談事業相乗効果			
	局-5	中小企業のIT/IoT導入支援		IT・IoT			
事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)	(a)府施策連携 (大阪産業局関連)局-5 コロナパッケージ⑧ 大阪産業局MOBIO事業部技術支援チームと連携しながら実施する。 (c)市町村連携 市役所・町役場との連携を通じて、案内周知を図る。市・町報版(会議所ニュース)を通じて、幅広く周知する。 (d)相談事業相乗効果 参加企業の個別の課題解決に対して、販路支援、IT支援等にてカルテ化に繋ぎ、相談事業相談効果を図る。						
主な事業の目標	総支援対象企業数	大阪産業局関連	過去のセミナー等の事業の実績から設定。 募集方法は、DM等での案内、行政の窓口の広報ツール配架により周知を行う。				
	支援対象企業の変化 (代表的な指標)	22 社	スマホを用いての販路開拓を目指す又は手法の改善をするようになる。				
	指標	ITを用いた販路開拓の方法に理解が深まった割合			数値目標	70%	
その他目標値	目標値の内容⇒						

算定基準 (行が足りない場合は、⇒ の行に挿入)	サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費		
	20,200	円 ×	22	社 ×	1.00	=	444,400	円	
		円 ×		社 ×		=		円	
		円 ×		社 ×		=		円	
		円 ×		社 ×		=		円	
		円 ×		社 ×		=		円	
	合計		22	社	(小計)		444,400	円	
※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%)								円	
							計	444,400	円
独自提案単価及び独自補正係数の根拠									
算出額	①市町村等補助		円	交付市町村等					
	②受益者負担		円	負担金の積算					
	<input type="radio"/>	(a)府施策連携		<input type="radio"/>	(b)広域連携	<input type="radio"/>	(c)市町村連携	<input type="radio"/>	(d)相談事業相乗効果
	標準事業費			補助率			(①市町村等+②受益者負担)		
	444,400	円	×	1.00	=	444,400	円	(	円)
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体 またはヒアリングで説明する 代表団体に○)	代	商工会・会議所名		配分額		役割(配分の考え方)			
	<input type="radio"/>	泉佐野商工会議所		444,400 円					
				円					
				円					
				円					

【備考】

※別添で補足する内容があれば添付してください。

事業名		パート社員・シニア社員等の適正な雇用管理・育成・活用によるコロナからの再生事業		事業番号	24	新規/継続	新規
想定する実施期間		R3 年度～	R3 年度まで	1	年目	←複数段階的実施事業は左欄に○を付けること。また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業概要	新型コロナウイルス感染症による影響からの再生を図るため、パート社員への社会保険適用拡大や昨年、法改正された高年齢者雇用安定法等、法改正への対応を図ることで、人手不足を解消し、経営力を高める。					
	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	2022年の10月から101名以上の事業所、2024年10月からは51名以上の事業所で、パート社員への社会保険適用が拡大される。社会保険は雇用保険よりもはるかに高額な保険料が会社負担となり、従業員も給与の手取り減少に直結する問題である。対策の無いまま実施日を迎えることは、会社も急な人件費増加に慌てることになりかねない。又、昨年改正された高年齢者雇用安定法により、70才までの就労確保も努力義務化されている。このような状況の下でも積極的な対応が望まれることから、法改正対応を学び、人手不足を解消するとともに経営力をさらに強化する。					
	支援する対象 (業種・事業所数等)	経営者、管理職を対象とした職場環境改善に取り組む中小・小規模企業					
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	これからのパート社員とシニア社員のあるべき姿を模索している事業所で、非正規社員等に関わる法改正対応を学びながら、経営力強化に必要なスキルやノウハウを身に付けたいという企業が多くある。					
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値						
	反省点						
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	○ 人材育成型	開催時期 R4年3月中旬(1日) 内 容 ・パート社員、シニア社員の雇用状況 ・押さえておきたい法改正のポイント ・パート社員の社会保険適用拡大への対策 ・シニア社員70才就労確保への対策 ・同一労働同一賃金問題への対策 ・必要となる諸規定の整備 ・関連助成金のフル活用 等  講 師 社会保険労務士等の専門家・コンサルタント					
	人材交流型						
	販路開拓型						
	ハズオン型						
	独自提案型						
○ (a)府施策連携	○ (b)広域連携	○ (c)市町村連携	○ (d)相談事業相乗効果				
事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)		労-12 雇用・労働啓発セミナー事業		人材育成・労務			
		(a)府施策連携 (労働関係) NO.12 コロナパッケージ⑥ 大阪府労働環境推進グループ阪南地域労働ネットワークと連携(コロナパッケージ⑥) (c)市町村連携 市役所等の協力を得て、事業のPRを行い、参加者を募る。 (d)相談事業相乗効果 開催日以降の相談・支援については、経営指導員が随時対応し、より専門的な相談の場合は専門家へ繋ぐ。					
主な事業の目標	総支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒	・泉佐野市ホームページ、広報、チラシ配架等で周知する。 ・町会を通じて商工会議所ニュースを全戸配布し広く一般の方に告示する。				
	15 社						
	支援対象企業の変化 (代表的な指標)	急な人件費の増加に対応ができ、従業員の職場定着・離職防止・組織基盤の強化にもつながる。					
	指標	パート社員やシニア社員の就労確保対策を進めやすくなったと感じた事業所の割合			数値目標	70%	
	その他目標値	目標値の内容⇒					

算定基準 (行が足りない場合は、⇒ の行に挿入)	サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費		
	20,200	円 ×	15	社 ×	1.00	=	303,000	円	
		円 ×		社 ×		=		円	
		円 ×		社 ×		=		円	
		円 ×		社 ×		=		円	
		円 ×		社 ×		=		円	
	合計		15	社	(小計)		303,000	円	
※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算 (小計の5%)								円	
							計	303,000	円
独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)									
算出額	①市町村等補助		円	交付市町村等					
	②受益者負担		円	負担金の積算					
	<input type="radio"/>	(a)府施策連携		<input type="radio"/>	(b)広域連携	<input type="radio"/>	(c)市町村連携	<input type="radio"/>	(d)相談事業相乗効果
	標準事業費			補助率			(①市町村等+②受益者負担)		
	303,000	円	×	1.00	=	303,000	円	(円)	
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体 またはヒアリングで説明する 代表団体に○)	代	商工会・会議所名		配分額		役割 (配分の考え方)			
		泉佐野商工会議所		303,000 円					
				円					
				円					
				円					

【備考】

※別添で補足する内容があれば添付してください。